平成 27 年度事業報告書

1　平成 27 年度事業の概要

平成 27 年度は，京都市からの補助金受入れ廃止など自律化に向けて大きく踏み出した年度であったが，公益目的事業，公園収益事業とも積極的な事業の展開により着実に収益を上げ，公益目的事業の必要な経費の執行を行いながらも，正味財産の減少を避けることができた。

公益目的事業においては，地球温暖化対策，生物多様性の確保，良好な生活環境や地域交流，防災等の面でますます重要となっている都市の緑を保全・創出するため，引き続き京都市緑の基本計画及び第１次京（みやこ）のみどり推進プラン等に基づく活動を推進した。都市緑化に関する講習会，自然に親しむ体験活動，稀少植物の保全に関する企業団体とのネットワーク事業，公園を生かした緑のイベントの開催，庭園文化の情報発信等を実施した。

このうち梅小路公園及び宝が池公園子どもの楽園の指定管理事業では，新たな指定管理期間に入ったことから，利用者の利便性・快適性確保のための設備・運用改善を行った。特に梅小路公園においては，京都鉄道博物館の開業（平成 28 年春）をにらみ京都駅から公園の周辺エリアのエリアマネジメントの気運が高まっており，京都鉄道博物館，京都水族館等の公園施設管理者，関係機関，周辺の企業団体との連携を強め，各種事業を行った。

公園収益事業においては，上記の取組が利用料金等の増収に反映したほか，他の事業収入も堅調に推移した。

法人業務においては，評議員会を 2 回，理事会を 2 回開催した。財務に関しては，収益面で補助金（26 年度 26,334 千円）が全廃となったが，受託事業の拡大や公園収益事業の増収がこれを補い，経常収益計は前年度を上回った。費用面では，事業量の増加に伴い修繕費，委託費等の増加につながった一方で，光熱水費の削減，人件費の抑制及び優遇税制の活用等を行った。これらにより，当期一般正味財産増減額はプラスとなり，４期連続で黒字経営を保つことができた。

2　平成 27 年度の事業実施状況

※事業項目の「推進プラン事業」は京都市「第１次京（みやこ）のみどり推進プラン」の事業を指す。

Ⅰ　公益目的事業　　決算額　192,197 千円　（予算額　188,121 千円）

Ⅰ－１　都市緑化の普及啓発，緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりに寄与する事業

決算額　169,429 千円　（予算額　164,321 千円）

京都の都市緑化の普及啓発，緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりを目的として，管理運営する公園等を拠点として，各地域において，講習会，イベント，広報その他様々な事業を行った。

(1)　緑の学校と人材育成　　＜推進プラン事業番号 46-1，51-1＞

緑化に関する各種の講習会を実施し，緑のボランティアリーダー（**(6) ウ関連**）を育

成する「緑の学校」を運営した。

ア　園芸・造園関係の講習会等

a　園芸講習会

市民を対象として，園芸，造園など緑化に関連する技術・知識の普及を図った。

・講　師　花と緑の普及員　駒井修

・受講者　前期 35 人，後期 27 人　　・参加者数 6 回計 186 人

・受講料　前期 3,000 円，後期 3,000 円

・各回の実施内容

	回	開催日	実施内容
前期	第 1 回	5 月 28 日	鉢植えやプランターに用いる用土と肥料
	第 2 回	6 月 25 日	玄関周りやベランダで楽しむハンギングバスケット
	第 3 回	7 月 23 日	草花の夏越しと水生植物
後期	第 1 回	10 月 22 日	カラーリーフプランツの紹介と使い方
	第 2 回	11 月 19 日	秋植え球根と冬咲き草花の寄せ植え
	第 3 回	12 月 10 日	クリスマス飾り（ミニリース）の寄せ植え

（26 年度は計 9 回実施。）

b　季節を楽しむ園芸教室

園芸で四季を楽しむ単発の教室・講習会・体験コーナーを開いた。

教室名	開催日	講　師	受講料	参加人数
ニホンサクラソウを育てよう	4 月 15 日	原田弘種（協会）	1,000 円	21 人
春の和の花を育てる教室	4 月 24 日	藤井肇・秦賢二（緑化リーダー）	1,000 円	27 人
秋の和の花を育てる教室	10 月 1 日	藤井肇・秦賢二（緑化リーダー）	1,000 円	21 人
苔玉づくり体験／下京区ふれ愛ひろば（梅小路公園）	11 月 8 日	梅小路公園花と緑のサポーターの会	600 円	17 人
正月の寄せ植え	12 月 23 日	原田弘種（協会）	3,000 円	23 人
春の寄せ植え教室	3 月 23 日	烏賀陽百合（ガーデンデザイナー）	3,500 円	26 人

（26 年度は 6 回実施。）

c　地域での出張園芸講習会等

まちなみ緑化支援（(5)ア）関連の普及活動として，又は行政，ボランティア登録した団体等からの要請により，出張して講習会等を実施した。

場所／テーマ	開催日	講　師	参加人数	備考
高倉小学校（中京区）／ヒオウギ講習会	5 月 21 日 10 月 13 日	藤井肇・秦賢二（緑化リーダー）	101 人 25 人	中京区役所主催
島原のぞみデイサービス（下京区）／夏花への植替え	5 月 13 日	寺田裕美子（協会）	12 人	まちなみ緑化支援

上鳥羽北部いきいき市民活動センター（南区）／グリーンカーテン講習会	6 月 6 日	駒井修（協会）	15 人	
京エコロジーセンター（伏見区）／緑のカーテン講習会	6 月 7 日	駒井修（協会）	59 人	
菊浜連合会（下京区）／六軒橋・正面公園等の緑化（植替え，ワークショップ）	7 月 7 日 10 月 29 日 11 月 20 日	駒井修（協会）	20 人 20 人 72 人	まちなみ緑化支援
桃山プロジェクト（伏見区）／南部公園花壇植付け指導	2 月 13 日	駒井修（協会）	15 人	

（26 年度は 7 回実施。）

イ　花壇づくり講習会（花壇で学ぶ みどりのデザイン教室）

公共的な場所での花壇づくりを中心に，設計や植付け等のグループ作業を通じて，グループで行う緑化活動の基本をシリーズで学んだ。

・講　師　花と緑の普及員　駒井修

・受講者　前期 16 人，後期 15 人　　・参加者数のべ 108 人

・受講料　前期 2,000 円，後期 2,000 円

	回	開催日	実施内容
前期	第１回	5 月 19 日	花壇の歴史デザイン　個人の課題
	第２回	5 月 26 日	花壇のデザイン（グループ作業）
	第３回	6 月 16 日	地拵え・花壇管理講習
	第４回	6 月 23 日	実習花壇の植付け（七条広場東側）
後期	第１回	10 月 20 日	冬・春花壇の設計手順
	第２回	10 月 30 日	個人のデザインを基にグループで冬花壇の設計
	第３回	11 月 13 日	地拵え・花壇管理講習
	第４回	12 月 4 日	実習花壇の植付け（七条広場東側）

（26 年度は前期 6 回，後期 4 回シリーズ。）

ウ　家庭の庭づくり（ガーデニング）講習会

おもに家庭などでの身近なガーデニング（庭づくり）について，計画の立て方から造成，植栽，維持管理，庭での楽しみ方まで，講師との対話形式で学んだ。

・講　師　花と緑の普及員　野杁勝俊

・受講者　17 人　・参加者数 6 回のべ 87 人　　・受講料　2,000 円

回	開催日	実施内容
第１回	10 月 23 日	家庭の「庭づくり」
第２回	11 月 13 日	自宅の庭を考える
第３回	11 月 27 日	庭を造って植える
第４回	12 月 11 日	庭木の手入れ（剪定）
第５回	12 月 18 日	草花の手入れ
第６回	1 月 15 日	庭の楽しみ方

（26 年度は年間で 12 回実施。）

エ　緑の散策ツアー　＜推進プラン事業番号 38-2＞

広報誌「京のみどり」との連動企画として，市内各地のまちなかの緑のスポットを訪ね歩き，緑にかかわる歴史文化や快適な生活環境づくりを考えるツアーを行った。

・参加費　1,000 円（入園料等別途。）

回	開催日	コース／講師	参加者数
第 1 回	6 月 24 日	太秦周辺（蚕ノ社～車折神社～鹿王院等）／田端敬三（近畿大学農学部講師）	11 人
第 2 回	7 月 22 日	京の庭めぐり　龍安寺，北山都乾園龍安寺店／吉田昌弘（協会理事，（一社）日本ランドスケープコンサルタンツ協会顧問）	40 人
第 3 回	10 月 21 日	今熊野周辺（新熊野神社→今熊野観音寺→泉涌寺等）／田端敬三	16 人
第 4 回	11 月 25 日	京の庭めぐり　妙心寺（妙心寺　「桂春院」～「大法院」）／吉田昌弘	21 人
第 5 回	3 月 2 日	京の庭めぐり　銀閣寺／吉田昌弘氏	29 人

（26 年度は 6 回実施。）

オ　公園樹管理士認定研修会への講師派遣等

（一社）京都造園建設業協会主催の「公園樹管理士制度」による認定研修会について，研修プログラム作成及び講師派遣の業務を受託した。

・開催日　28 年 1 月 16 日　　・場所　京都工業会館（右京区）

・参加者　街路樹剪定士（日本造園建設業協会認定）23 人

・講　師　吉田昌弘，藤井俊志（協会専務理事）

(2)　自然環境に関する講習会・体験活動

ア　体験型講習会，自然観察会等　　＜推進プラン事業番号 35-3，52-7＞

a　梅小路公園自然観察会の実施

様々な生き物に親しみ，自然の仕組みを理解していただくことを目的として，ビオトープ「いのちの森」をはじめとする公園内での自然観察会を実施した。講師は京都ビオトープ研究会（森本幸裕代表）いのちの森モニタリンググループ，協会職員等。

①　月例等定期の観察会

・参加料　無料（別途いのちの森入園料 200 円。グリーンフェア時は無料。）

・各回の実施内容（計 14 回・参加者計　212 人）

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4 月 18 日	植物の観察 1	10 月 3 日	グリーンフェア観察会
5 月 3 日	グリーンフェア観察会	10 月 17 日	植物の観察 6
5 月 16 日	植物の観察 2	11 月 21 日	植物の観察 7
6 月 20 日	きのこの観察	12 月 19 日	植物の観察 8
7 月 18 日	植物の観察 3	1 月 16 日	野鳥の観察
8 月 15 日	植物の観察 4	2 月 21 日	公園植物の観察
9 月 19 日	植物の観察 5	3 月 21 日	植物の観察 9

（26 年度は 14 回実施。）

② 子ども緑の学校～梅小路公園子ども自然観察会

子ども向け自然観察会を 24 年度からシリーズ化して開催。いのちの森周辺の季節の移り変わり，植物の生長を見守り，収穫して利用する体験を通して自然に親しむ機会をつくった。

・講師　いのちの森モニタリンググループ（田端敬三・北川ちえこほか），中村源吾（稲作農家），小谷尚江（協会プレイパークリーダー）

・対象　小学生（一般公募，公園周辺小学校・児童館）　・受講料　600 円（6 回分）

・各回の実施内容（参加者数　6 回のべ 134 人。保護者除く）

回	開催日	内　容
第 1 回	5 月 23 日	田植え体験・ヒオウギ植替え
第 2 回	6 月 20 日	キクタニギク挿し穂
第 3 回	7 月 18 日	ヒオウギ観察
第 4 回	8 月 2 日	工作体験
第 5 回	9 月 21 日	稲刈り体験
第 6 回	10 月 17 日	脱穀体験

（26 年度は 6 回実施。）

③ 団体向け観察会　（講師・協会普及啓発担当職員）

開催日	団体名	内　容	参加人数
3 月 1 日	梅小路小学校（1・2 年生）	公園のウメ観察，木の実探し	32 人

（26 年度は 1 回実施。）

b 宝が池公園自然あそび教室

自由な遊びを中心とする通常のプレイパーク活動（**（7）ウｃ**）とは別に，プレイパークゾーンとその周辺の自然環境を生かし，遊びながら学べる教室を実施。自然観察のほか，クラフト，自然の仕組みや生活文化等を学ぶ多彩なプログラムを行った。

・開催日 原則第 1 第 3 土曜日　　・実施回数　計 37 回（26 年度は 30 回実施）

・のべ参加人数 852 人

・特別プログラム　自然の模様・古代のものづくりを楽しもう（（公財）京都市埋蔵文化財研究所協力），木の実クラフト（宝が池グランドプリンスホテルでの出張開催），夏休みキャンプ，夏の虫・秋の虫観察(京都工芸繊維大学協力)，草木染め体験，夜の生き物観察　等

c 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館との共催事業

11 月 21 日，秋の京都御苑で自然あそびを実施するため，講師と補助スタッフを派遣し，みらい館スタッフとともに実施。落葉や木の実探し，簡単な工作等。

・講座名　子育てパワーアップ講座「京都御苑で秋の宝物を探そう！」

・受講者　幼児と保護者 34 組，70 人　・講師　小谷尚江ほか 2 人

イ 里山環境を考える学習会

a 宝が池連続学習会

「森をしらべる・森をそだてる・森をつたえる」をテーマに，ナラ枯れ，シカ害等により次世代の植物が育たない危機的な状況にある森の問題を，座学とフィールドワークで多面的に考える連続学習会。

・参加費（6 回分）　1000 円（一般），500 円（学生）

・場　所　京都府立大学，上高野防災会館等
・参加者　6 回計 121 人

回	開催日	内　容／ 講 師（敬称略）
第 1 回	7 月 18 日	森とつながる“水域”の生物の生息環境／竹門康弘（京都大学准教授），森川裕之（NPO 法人 NAURE WORKS ）
第 2 回	9 月 13 日	森の環境基盤を学ぼうー土を学ぶ（入門）ー／中尾淳（京都府立大学助教）
第 3 回	10 月 4 日	森林再生にむけてー行動と実践 1 野生生物ー／高柳敦（京都大学講師）
第 4 回	11 月 1 日	森林再生にむけてー行動と実践 2ー森を育てる／田中和博（京都府立大学教授），長嶋啓子（京都府立大学准教授）
第 5 回	12 月 13 日	楽しい森をめざそうー森の将来像を語るー／柴田昌三（京都大学教授），丹羽英之（京都学園大学准教授）
第 6 回	3 月 14 日	宝が池界隈の歴史からみる森の利用とくらし／吉崎伸（京都市埋蔵文化財研究所）

b　京都工芸繊維大学との共催事業（野蚕と呼ばれる虫たちの世界）

宝が池周辺に生息する絹糸昆虫の野蚕（やさん）についての講座。世界の野蚕の仲間や，保護繁殖と利用を図る「京都北山やままゆ塾」の活動も紹介した。

・開催日　1 月 31 日　・場所　京都工芸繊維大学 15 号館
・講師　齊藤準（工繊大準教授），野田奏栄・小川美知（協会），下村輝（下村ねん糸）
・参加者　50 人（高校生以上）

ウ　公園・庭園の樹木と対話する教室

梅小路公園内を歩き，植物名の由来，生活での利用方法，造園コンセプトに基づいた景の見方など季節に合わせた解説を行い，植物や緑の文化に親しんでいただいた。

・開催日　第 1 金曜日（1 月を除く。）　・実施回数　計 12 回
・講師　野杁勝俊（協会相談員・花と緑の普及員）
・受講者　計 118 人　・受講料　無料（庭園に入る場合は別途入園料。）
（26 年度は 12 回実施。）

(3)　緑の相談所運営

ア　相談業務

園芸等の知識を広め，緑化推進を図るため，平成 10 年度以降，無料の相談業務を行っている。2 度の移転を経て 25 年度以降は梅小路公園緑の館の仮設ブースで行う。27 年度は「花とみどりの相談所」と通称を掲示して利用を呼び掛け，相談件数は回復基調にある。相談内容はデータ化し，一部をホームページと広報誌で公開している。

・相談日　毎週 2 日（水曜日，土曜日）及びイベント等での出張相談
・時　間　午前 10 時～午後 4 時まで（面談又は電話による。）
・相談員　原田弘種，野杁勝俊（定例）,花と緑の普及員・緑化リーダー等（出張相談）
・実　績　相談日数　101 日
相談件数（内容別）　1,005 件（うち面談による相談 55.8%）
（平成 26 年度は件数 914 件，うち面談による相談 56.6%）

イ　稀少植物の保全・普及

市民団体，園芸家，京都放送（ＫＢＳ京都）等の協力による稀少な在来種を含む和花等の展示会（（４）ア b）に関連し，稀少植物保全の活動を継続して進め，すそ野を広げていくため，ネットワークづくりや普及啓発冊子の制作（（８）イ参照）等に取り組んだ。

a　ＫＥＳ環境機構「京のエコロジカルネットワークプロジェクト」への協力

京都発の環境マネジメントシステムの認証を行う特定非営利活動法人 KES 環境機構が取組む企業・団体の環境 CSR 活動「京のエコロジカルネットワークプロジェクト」への技術的な支援及び企画協力を行った。26 年度は 18 団体が試行的に参加し，27 年度は本格的に募集が行われ，94 団体が参加した。

・KES エコロジカルネットワーク事前説明会　5 月 29 日　京都工業会館　81 社 97 人
講演「都市における生物多様性」（森本幸裕理事長），「京都市生物多様性プランについて」（京都市環境政策局）ほか。

・栽培講習会　6 月 19 日　48 社 64 人　　6 月 26 日　40 社 56 人
講師　藤井肇，秦賢二（協会緑化リーダー）及び特定非営利活動法人葵プロジェクト
フタバアオイ，フジバカマほか計４種を鉢植えし，栽培管理について指導。

b　京都市「京の生きもの文化協働再生プロジェクト認証制度」に基づく技術指導

同制度の認証を受けた団体に対し，京都市の依頼を受け，技術指導を行った。

・日新電機(株)　工場建屋周囲，本社玄関前の緑地帯を生物多様性に配慮した在来種主体の植栽，「雨庭」の概念を採り入れて緑化。

・三菱自動車工業(株)パワートレイン製作所　生物多様性に配慮した広場の緑化
12 月 11 日　植栽式　フタバアオイ，ヒオウギ，フジバカマを社員 40 人で植栽

c　施設・環境イベント等での普及啓発活動

・市役所ロビー
「みどりの月間」行事の建設局みどり政策推進室のポスター展示に参加（4 月 13～17 日）／祇園祭期間中の高倉小学校の稀少植物ヒオウギ(自生種)展示に協力

・大阪市長居公園スプリングフェスティバル
5 月 31 日　長居公園・植物園を運営する（一財）大阪スポーツみどり財団との相互協力の一環で出展。和の花啓発等。(同財団は梅小路公園グリーンフェア秋に出展。)

・京都みつばちガーデンフェア（中京区役所主催）
5 月 29～30 日　ゼスト御池　和の花啓発ポスター展示，パンフ類配布

・祇園祭後祭「エコ屋台村」（京都市主催）
7 月 21～23 日　京都市芸術文化センター　ＫＥＳ環境機構エコロジカルネットワークプロジェクトのパネル、ヒオウギ鉢展示に協力。

・京都駅ビルでの稀少植物展示
緑化展示施設「緑水歩廊」で，稀少植物のフジバカマ（9 月 30 日～10 月 13 日），キクタニギク(11 月 18～12 月 1 日)を展示し、特性や関連する生活文化をパネル解説。

d　環境省第 10 回「みどり香るまちづくり」企画コンテスト入賞

かおりのする樹木・草花を使ったまちづくりの企画を募集するコンテストで，梅小路公園の植栽帯の一角をテーマに応募したところ「入賞」を受賞した。日本植木協会，日本アロマ環境協会が低木，宿根草の一部を提供。

・企画名「京都ゆかりの花と香りを広げる梅小路公園花壇」（デザイン・駒井修）

・概要　朱雀ゆめひろば東側部分約 60 ㎡に香気のある低木や「和の花」を植栽。京都鉄道博物館開業等で増加が予想される来園者に京都ゆかり植物を知っていただく。

・表彰式　2 月 22 日　環境省
・植付け作業　3 月 19 日 ボランティア・子ども参加による

e　京都市エコ学区緑化事業への協力

京都市から京エコロジーセンターが受託するエコ学区事業で，中京区,上京区の学区の方々による和風寄植え資材をコーディネートし調達。

(4)　緑のイベントの開催及び支援

植物や公園に関する様々なイベントを開催した。特に梅小路公園においては，開園 20 周年行事を行い，利用者とともに祝った。

ア　みどりの月間，都市緑化月間等のイベントの開催，協力

みどりの月間（4～5 月），都市緑化月間（10 月）に，「守ろう！古都の自然」キャンペーンとして，グリーンフェア春／秋，春の和の花展，藤袴と和の花展などの様々なイベントを実施した。

a　梅小路公園グリーンフェア 2015 春／秋

爽やかなみどりや広々とした空間など公園のもつ心地よさ，安らぎ，にぎわいを多くの市民に感じていただくために，春と秋の 2 回実施した。

開　催　日		天　候	来場者数
春	5 月　3 日（日）	晴時々曇	30,000 人
	5 月　4 日（月・祝）	曇時々雨	14,000 人
秋	10 月　3 日（土）	晴	26,000 人
	10 月　4 日（日）	晴	18,000 人
計			88,000 人

※　秋は「市民ふれあいステージ」も同時開催。

b　春・秋の和の花展

自然保護団体や園芸家の協力により，絶滅危惧種を含む山野草，古典園芸植物等の屋外展示，イベントを行い，身近な自然環境を守る大切さを訴えた。

① 春の和の花展（第 6 回）

・期間　4 月 10 日～4 月 29 日（17 日間）　・会場　梅小路公園朱雀の庭，緑の館
・京都三山の絶滅危惧種を含めた和の花等約 128 種 252 鉢を展示。
・イベント　和の花を育てる教室，お茶席，ガイドツアー，キキョウ苗の無料配布，展示即売会等
・入場者数　2,180 人

② 藤袴と和の花展（第 7 回）

京都放送（ＫＢＳ京都）の「守ろう！藤袴プロジェクト」をきっかけに平成 21 年度から開催。京都府絶滅寸前種であるフジバカマ 320 鉢のほか，京都府レッドリスト掲載の種を含めた山野草等約 123 種 630 鉢を展示した。また，休耕田でフジバカマを保全栽培している水尾自治連合会（右京区），なんやかんや「大原野」推進協議会，市街地で栽培展示を行っている深草藤袴の会（伏見区），御所藤袴の会（上京区）とも広報等の協力を行うとともに，ＫＥＳプロジェクト（(3)イ a 参照）参加企業団体の育成鉢の展示も行った。

・主催（共催）　緑化協会・（株）京都放送

・期間　9 月 26 日～10 月 12 日（15 日間）　　・入場者数　2,903 人
・イベント　ＫＢＳ京都ラジオ「久米村直子の SuperDuperSunday」公開生放送，渡りの蝶アサギマダラなんでもコーナー（ＢＶアサギマダラの会），山野草展示即売会，お茶席，和の花展ガイドツアー，キキョウ苗プレゼント
・企画展示「京の稀少植物に親しむ」（9 月 26 日～30 日）　稀少植物の保全に取り組む（株）松栄堂との共催。同社が撮影したエイザンスミレ、オグラコウホネ、キクタニギクの写真，実物展示，パネル解説（監修・小林一彦・京都産業大学教授）及びフジバカマのお香づくりの紹介を行い，身近から消えた草花の大切さを訴えた。
・連動企画　京都駅ビル「緑水歩廊」での藤袴展示，御池通スポンサー花壇でのフジバカマ鉢の設置

c　**梅まつり in 梅小路**

梅小路公園内にある梅林を PR するため，下京区役所と協力し開催。期間中，床几を置くなどして，ゆっくり鑑賞していただけるよう工夫した。

・期　　間　28 年 2 月 27 日～3 月 6 日
・イベント　梅こぶ茶振舞い・梅の剪定教室等

d　**京都まちとみどり写真コンクール**

緑あふれるまちづくりを推進する第 31 回「京都まちとみどり写真コンクール」を共催した。計 646 点の応募があり，このうち 38 点が入賞・入選した。入賞・入選作品は梅小路公園「緑の館」で展示された後，道の駅「京丹波 味夢の里」，山城総合運動公園，京エコロジーセンター，けいはんな記念公園，京都府庁の府内 5 か所で展示された。

・主催　京都府都市計画協会主催
・共催：京都府，京都市，（公財）京都府公園公社，（公財）京都市都市緑化協会，（一社）京都造園建設業協会
・表彰式　10 月 3 日（梅小路公園「緑の館」）

e　**地域イベントへの参加**

区民まつり等に市民団体と協会が共同で出展，または出展を支援し，園芸体験コーナーを設ける等の活動を行った。

イベント名	開催日	場　所
堀川・桜まつり	4 月 5 日	堀川河川敷（一条戻橋～押小路橋）
中京区民ふれあいまつり	10 月 25 日	中京中学校グラウンド
下京区ふれ愛ひろば	11 月　8 日	梅小路公園

イ　梅小路公園開園 20 周年イベント

平成 27 年 4 月 29 日に迎えた開園 20 周年を祝う様々なイベントを行った。

a　**旬花祭（しゅんかさい）**

・野外いけばな展　華道専慶流　4 月 10 日～12 日　朱雀の庭
浅池「水鏡」を中心に，華道専慶流の華道家たちによる創造的ないけばな作品を多数展示した。
・春の煎茶会　煎茶道方円流　4 月 10・11 日（各日 6 回）　緑の館

b　**梅小路 20 周年フェスタ**

・記念チンチン電車の運行・復刻デザイン乗車券の販売　4 月 29 日
チンチン電車に「ありがとう梅小路公園 20 周年」の特別プレートを付けて運行。京都市電が廃止となった日の廃止記念乗車券のデザインを復刻した限定乗車券（1 日乗車

券のみ）を販売した。

・当時の姿が蘇る市電展示　4 月 29 日～5 月 4 日　市電展示室・市電ひろば
市電ひろば等の車両を運行当時の姿を復元して展示。市電展示室では，備品やパーツなど当時をしのばせる貴重なアイテムも展示。（監修・協力　市電ひろば協力会・日本路面電車同好会関西支部）

・写真展「梅小路公園の 20 年」　4 月 29 日（水・祝）～5 月 4 日　緑の館イベント室
1995 年の開園から今日までの公園の移り変わりを中村公彦氏の写真でたどった。合わせて，同年に発刊し，梅小路公園の歩みを知ることができる協会広報誌「京のみどり」の創刊号から最新 74 号までを展示した。

c　**リビング秋祭り**（京都リビング新聞社主催，当協会協力）

11 月 22 日　緑の館・朱雀の庭でのリビングカルチャークラブのトークセミナー，写真講座，庭園ガイドツアー等。同日の庭園入場者数 336 人。

ウ　「みどり」に関連した教室の開催

a　草木染めを使ったパッチワーク教室

公園のサルスベリやアラカシの葉や枝等で草木染めした布を使い，フラワータペストリー、秋のおでかけバッグを制作。開催日の午前・午後に約 20 人ずつが受講。

・講師　池田由美子
・第 1 期　開催日　4 月 16 日，5 月 14 日，5 月 28 日，6 月 11 日,6 月 25 日
・第 2 期　開催日　9 月 10 日，10 月 15 日，11 月 12 日，12 月 10 日,12 月 24 日
・第 3 期　開催日　1 月 14 日，1 月 21 日，2 月 25 日，3 月 10 日,3 月 24 日
・のべ実施回数 30 回（26 年度は 20 回）　・のべ参加者数 623 人

b　梅の実採り体験

利用者に愛されている梅林内のウメの実の盗難防止を兼ね，事前に告知を行い，子どもを含め，梅の実採りを体験していただいた。

・開催日　6 月 3 日　・参加者数　200 人
・実施協力　梅小路公園花と緑のサポーターの会

(5)　まちなか（市街地）緑化事業

ア　和花等を生かしたまちなみ緑化　＜推進プラン事業番号 43-9＞

緑視率の向上と町並み修景を図るため，和のイメージのコンテナ等を街路沿いの狭いスペースや公共的な施設周り等に設置，施設利用者や地域住民に管理していただき，協会が技術的支援等を行った。

①　**島原のぞみデイサービスの沿道**（下京区西新屋敷中之町，23 年度からの継続）
通りに面した「花矢来」4 基，ハンギングバスケット 6 基等の植替え・管理を指導。園芸療法士による花に親しむ講習会を 1 回実施。（(1)ア c 参照）

②　**菊浜学区「花回廊づくり」**（下京区，24 年度から継続）
六軒橋東詰，高瀬川正面公園のコンテナ計 35 基，通りに面した家屋軒下のコンテナ 20 基の植替え・管理指導。花に親しむ講習会等を 3 回実施。（(1)ア c 参照）

③　**月輪小学校・園芸美化有志の会**（東山区，26 年度から継続）
月輪小学校跡地の花壇・畑を活用して花を殖やし、入口付近を緑化。

イ　御池通スポンサー花壇等の地域の緑化の推進

京都市のシンボルロードである御池通を企業等のスポンサーの寄付により四季の花で

彩る京都市御池通スポンサー花壇事業（花壇基数 102 基）で，沿道の事業者・市民ボランティアが行う花壇の巡回管理の補助，ニュース発行，ボランティア募集等の普及啓発を行う業務を受託した。祇園祭に合わせてダルマヒオウギを植えるなど，京都らしさや季節感の演出に努めた。（(6)ア a 参照）

・全面植替え 4 回，巡回管理のべ 126 回（全区間相当 49 回）
・ニュース（スポンサー花壇だより）発行 6 回，アンケート調査 1 回
・講習会（デザイン検討，作業安全）開催 2 回　計 55 人参加

(6)　緑の団体支援

ア　「京都みどりのサポーター協議会」の運営

各地で緑化を担う緑の活動団体と本協会が協働で緑化を進めるための組織「京都みどりのサポーター協議会」を運営した。

・参加団体　梅小路公園花と緑のサポーターの会（岩永忠正代表），中京・花とみどりの会（西村勇代表），ＮＰＯ法人地域社会の環境保全と科学技術の振興を目指す会（飯井基彦理事長），小野芙蓉会（谷中登美行代表），京都みどりクラブ（久武公一代表）
・会長＝西村勇，副会長＝岩永忠正

a　京都市御池通スポンサー花壇の沿道「サポーター」への支援

日常の手入れを担う沿道の事業所等の「サポーター」の活動を補助・支援（点検，整姿，病害虫防除等）した。

b　協議会参加団体と協力した地域イベントへの出展　((4)ア e 参照)

c　事例研修　10 月 25 日　第 32 回全国都市緑化あいちフェア（愛・地球博記念公園）等の見学　60 人参加

d「昆陽南公園の苗圃を活用する会」の研修受入れ　11 月 27 日

26 年度に協議会が研修で訪問し，交流を行った兵庫県伊丹市の緑のボランティア団体が京都で研修を行い，協議会３団体代表が出迎えた。梅小路公園，京都府立植物園を見学。参加 26 人

イ　緑の活動団体登録制度（ボランティアセンター機能）の準備

ボランティアベースの緑の活動団体の人材，ニーズに関する情報交換を行い，技術支援や協働の取組みを推進するためのボランティアセンターは，公園再整備等の影響でハード面の整備は見通しが立っていないが，京都市と協力しながら，団体の情報収集と登録等の準備を行い，試行的に出張相談や余剰資材の提供等を行った。

ウ　緑の学校の運営と緑化リーダーの認定

緑のボランティア活動の取組みを進め，支援の効果を高めるため，「緑の学校」のカリキュラムを２年以内に修了した人（（1）参照），ボランティア指導の実績のある人材等を緑化リーダーとして認定している。27 年度末までの認定者数は 37 人。

(7)　公園緑地の利用促進及び多目的な機能の向上に寄与する事業

ア　梅小路公園指定管理業務等の受託

3 期目の指定管理期間の最初の年度，梅小路公園開園 20 周年に当たり，利用者の利便性向上，安全確保，イベント開催やニュース発行等による利用促進を図った。

利用者の増加や多様化に対応して，授乳室の緑の館への設置（8 月），屋外トイレ（大

宮入口，七条入口広場）への洋式便器の導入（8 月），総合案内所の英語対応（10 月～）などを進めた。

また，指定管理区域外の遊戯用電車（チンチン電車）の運行については，公園一体として行うべきであることから，27 年度も引き続き京都市から運行業務を受託した。

a　梅小路公園・施設管理者連絡会の開催

平成 28 年春の京都鉄道博物館の開業をにらみ，各公園施設の管理者が情報交換し，相互の事業の調整や協力，安全確保等のために協議する「梅小路公園・施設管理者連絡会」を，事務局として開催した。

・27 年度開催（計 4 回）
第 4 回・4 月 23 日，第 5 回・7 月 24 日，第 6 回・10 月 1 日，第 7 回 1 月 15 日

・構成　京都市建設局みどり政策推進室・南部みどり管理事務所（公園設置・管理者），オリックス水族館（株）（京都水族館），西日本旅客鉄道（株）京都支社，（公財）交通文化振興財団（梅小路蒸気機関車館（8 月 30 日閉館），京都鉄道博物館），（株）コラボ（グリーンハウスコラボ，梅小路パークカフェ），（株）京都駅観光デパート・（株）エーゲル（市電カフェ）・（株）立誠社（市電ショップ），（一財）京都市都市整備公社（駐車場，駐輪場），及び当協会（公園指定管理者）

b　京都・梅小路みんながつながるプロジェクト（京都・梅小路まちづくり推進協議会）への参加

ＪＲ西日本及び京都水族館が主体となり，京都駅から梅小路公園周辺までのエリアの企業や団体に呼びかけ，持続的な回遊性の向上や賑わいづくりに取組む協議会として 26 年度から準備を進めてきた協議会が，27 年 5 月に正式に発足した。当協会も公園指定管理者として積極的に参画した。

・設立総会及び第 1 回理事会・実務者会議（5 月 11 日）より，理事会 4 回，実務担当者会議 7 回を開催

・27 年度事業　京都駅から公園までのルートへのモニュメントの設置，バナー・フラッグの掲出，集客イベントの開催（d参照），合同清掃活動（毎月1回），エリアガイド発行，ホームページ開設，案内・サイン・休憩スペースなどの充実

・構成　京都駅から梅小路公園周辺までのエリアの 22 企業・団体

c　京都駅西部エリアまちづくり協議会

京都市が「京都駅西部エリア活性化将来構想」（27 年 3 月策定）の将来ビジョン「多彩な地域資源をつなげ，京都の新しい賑わいを創出するまち」に基づき，エリアの活性化に資する取組を行うエリアマネジメント組織として 28 年 3 月に発足した。「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」を含むエリア内の協議会等の団体への支援や連携事業に取組むこととしており，代表には梅小路公園指定管理者である当協会の代表であり，学識者の森本幸裕理事長が就任した。

・第 1 回総会　3 月 4 日

・構成　エリアの商店街，自治連合会，施設（梅小路公園，京都鉄道博物館，京都水族館，中央卸売市場，リサーチパーク），寺社（東西本願寺），大学（龍谷大学），企業，行政（京都市）等の 18 団体

d　各種イベントの開催，展示会の誘致等

当協会が共催するイベントのほか，地域の団体のイベント等，開催に積極的に協力するイベント等がある。

27 年度のおもなイベント（例）は次のとおり。

開催日	イベント名
第 1 土曜日	梅小路手づくり市（5 月，1 月を除く。）　※協会との共催事業。
4 月 26 日	第 86 回京都中央メーデー
5 月 16，17 日	全国お国自慢旨いものフェア
5 月 24 日	下京区民グラウンドゴルフ大会
6 月 15 日	第 12 回カフェカブパーティーＩＮ京都
7 月 4 日	サマーフェスタ 2015　夏の大感謝祭（JA 京都市）
8 月 30 日	京都京北・森林（もり）の収穫祭
9 月 12 日	第 19 回梅小路公園ふれあいコンサート（下京少年補導委員会と近隣の学校）
9 月 20 日	京都音楽博覧会ＩＮ梅小路公園（第 9 回）（京都出身バンド「くるり」を中心とした野外コンサート。協会特別協力）
9 月 27 日	リベレーションフェスタ（人権擁護啓発の交流イベント）
10 月 10～12 日	太陽と星空のサーカス（京都・梅小路みんながつながるプロジェクト）
10 月 17 日	京都市ほほえみ広場 2015（障がいのある市民・ない市民の交流イベント）
10 月 3，4 日	京都文化祭典市民ふれあいステージ(グリーンフェアとの同時開催)
10 月 18 日	マルシェドママン（お母さん中心となって，開く手づくり市）
10 月 24 日	京都やんちゃフェスタ 2015
10 月 30～1 日	京野菜フェスティバル（京都府等。旧「九条ねぎ」フェスティバル）
11 月 8 日	下京区ふれ愛ひろば（下京区役所等）
11 月 14，15 日	梅小路ごはんフェス（京都・梅小路みんながつながるプロジェクト）
12 月 13 日	下京区総合防災訓練（下京区防災会議）
2 月 13,14 日	太陽と星空のサーカス（京都・梅小路みんながつながるプロジェクト）
3 月 5～6 日	第 6 回京都ツーデーウォーク（（一社）日本ウォーキング協会）
3 月 26～27 日	第 2 回梅小路フェス！Do You KYOTO?

イ　宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の受託

子どもや家族連れが快適に過ごせるよう，良好な管理及びイベントを充実し，特に平日の利用の拡大に努めた。親水施設の小まめな清掃，夜間に侵入するシカの糞の除去，プレイパークゾーン法面の侵食の監視，特定外来生物セアカゴケグモの点検・駆除等の安全・安心に特に配慮した。

ウ　プレイパーク事業

a　梅小路公園プレイパーク

「あそびのリーダー」となる大学生等のボランティアを中心に運営を組織し，毎月２回，定例の活動を実施した。季節にちなんだプログラムも数多く採り入れた。

・活動日　第２・第４土曜日
・実施回数　定例活動，特別企画及びグリーンフェアでの実施　計 20 回
　（26 年度は 27 回）
・参加者数（子ども・保護者）　計 2,363 人

b　梅小路公園ミニ・プレイパーク

幼児と保護者，または小学生を対象として，小人数による自然遊び等を行い，公園を「居場所」として感じていただく「ミニ・プレイパーク」を行った。

・活動日　原則火曜日午前または金曜日放課後
・実施回数　　12 回　（26 年度は 18 回）
・参加者数　のべ 385 人

c　宝が池公園子どもの楽園プレイパーク

自由な遊びを中心とする通常プレイパーク活動は，自然あそび教室（(2)ア b）の開催を増やしたことから前年度に比べ回数が減った。このほか，工夫を凝らした季節の特別イベントも開催した。

①通常プレイパーク　26 回（26 年度 33 回）

・活動日　原則日曜日　　・参加者数　のべ 8,838 人（26 年度 7,835 人）

②特別イベント

・4 月 20 日　こいのぼりペイント 35 人　4 月 25 日～5 月 6 日　こいのぼり掲揚
・5 月 5 日　ちびっこまつり（京都学生文化児童教化連絡協議会と共催）約 400 人
・6 月 1 日　親水空間オープニング企画・ふね作ってうかばせよう　60 人
・10 月 18 日　昭和 DAY（レトロな昭和の雰囲気で遊ぶ 3 世代交流行事）約 1,500 人
・10 月 25 日　宝龍狐伝説（楽園全体での様々なミッションをクリアしてカードを集めるゲーム）約 170 人
・11 月 7 日　左京子どもふれあいカーニバル（左京区「人づくり」ネットワーク実行委員会との共催）　約 2,000 人
・11 月 15 日　どんぐりまつり（遊びのコーナー）　約 800 人
・3 月 29 日　宝龍狐伝説 mini　場所・国立京都国際会館庭園（同会館との連携事業として「桜・さくらスペシャルデイズ 2016」に出展）約 100 人

③ けむんぱクラブ(宝が池ミニプレイパーク)

平日に 4 歳児までの乳幼児と保護者（親子）を対象に，森の散歩やもの作り等を通じて，親子や参加者間のつながりを深めるプログラムとして実施。

・開催日　毎月第 2 火曜日，第 2 金曜日（2 クラス）
・実施回数　計 24 回（26 年度は 21 回実施）
・参加者数 のべ 866 人

エ　公園ボランティアの運営，連携，支援　　＜推進プラン事業番号 52-7＞

a　ボランティア組織「梅小路公園・花と緑のサポーターの会」の運営

平成 19 年以降，週 2 回の定例作業日に園内の花壇等の植栽の手入れを行うほか，講習会の運営補助，公園内外の普及啓発イベントや緑化活動への協力等を行っている。

・会員数　平成 27 年度末現在 42 人
・実績　活動回数 132 回，参加人数のべ 1,211 人
・公園での他団体との交流　市立白河総合支援学校生徒との花壇の植付け作業，京都音楽博覧会への出展等
・「葵プロジェクト」への協力（上賀茂神社境内）
　フタバアオイを学校，企業等が育成保全する「葵畑」周辺の落葉を堆肥化する作業や，畑の拡幅作業を行った。（5 月 9 日，11 月 28 日）。

b　梅小路公園内「花と緑のセラピーガーデン」活動・園芸セルフケア教室

レイズドベッドを備えるなどバリアフリーの観点と，誰もが参加できる交流の場とい

う趣旨で協会が設置した通称「花と緑のセラピーガーデン」などで、園芸療法士の指導のもと、ボランティアが花壇の手入れ活動を行う。

・指導　花と緑の普及員　寺田裕美子（園芸療法士（米国ＨＴＲ）

・セラピーガーデン活動

主にセラピーガーデンの中で活動。身体障がい者，ひきこもり青年，アルコール依存症のリハビリ患者も受け入れ，他のボランティア等との作業を通じた交流も行っている。第 2・第 4 木曜日　計 20 回・62 人

・園芸セルフケア教室

植物の手入れを通して自身の健康チェックと生活リズムを整えることを主な目的に，27 年度にスタート。七条入口広場の花壇などで開催している。緑の中での健康づくりとともに，植物の名前，四季を通じた植物の管理方法を学んだり，交流を図り，徐々に輪が広がっている。毎週木曜日　計 46 回・251 人

c　市電車両の保全管理ボランティア活動

市電車両（チンチン電車，市電ひろばの車両，及び総合案内所として活用している車両）について，「市電ひろば協力会」及び「日本路面電車同好会関西支部」と覚書を交わし，清掃，点検，簡単な整備，保全管理のアドバイス等を行っていただいている。また，イベント時に運行していた市電の写真，模型やパーツの展示等の普及啓発に協力をいただいている。

オ　青空健康づくりプログラム（ウォーキング教室）　＜推進プラン事業番号 18-3＞

だれもが気軽にできる健康増進プログラムとして，梅小路公園の芝生広場でウォーキング教室を開催。27 年度は（公財）京都市健康づくり協会との提携により実施し，運動不足などを原因とするロコモティブシンドローム（運動器症候群，通称ロコモ）予防のメニューを多く採り入れた。

・講師　健康運動指導士・ヘルスケアトレーナー　松森賢二氏

・内容　ストレッチ，正しい歩き方指導，筋トレ，脳トレ，バランス運動，簡易体力測定，アンケート等

・季節ごとのテーマ

春～夏クール（4～7 月）	効果的なウォーキングとボディケアの方法を学ぼう！
夏～秋クール（8 月～11 月）	ロコトレを習慣化させよう！
冬クール（12 月～3 月）	ウォーキングをステップアップさせよう！

・参加料　無料

・開催日　第 2・第 4 火曜日　　計 25 回　のべ 1,062 人参加　（26 年度は 24 回実施。）

カ　社会体験活動等の受入れ

公園での社会体験活動，公園管理運営を研修するインターン学生の受入れを行った。

①　総合支援学校の社会体験活動の受入れ（梅小路公園）

市立白河総合支援学校の生徒の社会体験活動を受け入れ，ボランティアとの協働作業を交え，管理活動を行っていただいた。（6,7 月及び 11 月，計 15 人）

②　インターンの受け入れ

・京都学園大バイオ環境学部学生 5 人　梅小路公園　8 月の 5 日間ずつ

同　学生　2 人　宝が池公園子どもの楽園　8～9 月の 5 日間ずつ

・京都精華大学人文学部学生　2 人　宝が池公園子どもの楽園　8 月　10 日間ずつ

・京都大学大学院地球環境学舎　修士院生１人　10 月 7 日～12 月 9 日(2 か月間)

キ　円山公園巡回・案内業務

国の名勝であり市内有数の観光地である円山公園の施設の安全確認,樹木の枯損等の確認，サクラ開花（ホームページでの開花状況発信の試行）や紅葉の状況等を含む各種の問合せ対応,案内を行う業務を京都市から受託して実施した。

(8)　広報・出版

ア　京のみどり（季刊）の発行

市内各地の緑に親しんで歩いていただくためのマップや緑を守り育てる地域･団体の取組みを紹介する特集を継続して掲載している。また，ベランダ園芸講座，園芸相談，プレイパーク等の協会事業，京都市の公園緑地施策等の情報を紹介した。

・各号の特集の概要

第 75 号（夏号） 27 年 7 月発行	「特集　古都の「涼」を求めて三尾の里・保津峡を歩く」【右京区】（高山寺，西明寺，保津峡を鮮やかに彩るイワツツジ等）
第 76 号（秋号） 27 年 10 月発行	「伝統と歴史，そして自然を守る稲荷・深草のみどりと人を訪ねて」【伏見区】（NPO 法人京都・深草ふれあい隊『竹と緑』，京都教育大学まなびの森ミュージアム等）
第 77 号（冬号） 27 年 12 月発行	「特集　都の歴史を語り継ぐまち上京のみどりと出合う」【上京区】（相国寺，妙顯寺，浄福寺等）
第 78 号（春号） 28 年 3 月発行	「受け継がれる・みどりの財産～名勝円山公園～」【東山区】（佐野藤右衛門さんに聞く「祇園枝垂桜に学ぶ桜と人との関わり方」等）

・部数 7,000 部

・配布場所・配布先　市政案内所，区役所・支所，市立図書館，東京京都館，公園愛護協力会，全国の緑化団体等

イ　「和の花」保全に関する小冊子の発行

稀少になりつつある京都ゆかりの「和の花」を取り上げ，特徴や栽培方法，関連する生活文化を伝える小冊子「和の花を育てる」（26 年 3 月発行，国際花と緑の博覧会記念協会助成事業）の続編として，京都市の生物多様性プランに基づく取組を紹介する冊子「未来へつなごう！ 京都の生物多様性」の後半部に，和の花３種を紹介する「和の花を育てる３」を掲載した。

・内容　（第１章）生物多様性の概念の解説，「京都市生物多様性プラン」に基づく京都市の取組　（第 2 章）ショウジョウバカマ，クリンソウ，オミナエシの３種及び企業のによる保全の取組を紹介（当協会制作）

・発行　京都市環境政策局環境企画部環境管理課

・体裁　A5 版，32 ページ（第 2 章は 15～32 頁）　　・配布引受け部数　1,000 部

ウ　ホームページ，スマートフォンサイトの運営

協会ホームページ（PC サイト），梅小路公園用スマートフォンサイトを運営し，イベントや京都の緑の文化等のタイムリーな情報提供等に努めた。27 年度の年間アクセス件数は過去最高となった。

・アクセス件数（Visits）919,589 件（26 年度比 29.6%増）　（26 年度 709,488 件）
※Vists（訪問者数） 30 分以内の同一 IP をカウントしない，実質のアクセス数の指標。

(9) 調査・情報収集

ア 植生調査等　＜推進プラン事業番号 52-7＞

・梅小路公園いのちの森

適切な管理及び情報発信の基礎資料とするため，京都ビオトープ研究会による梅小路公園いのちの森のモニタリング活動への協力を行った。いのちの森は， 26 年度に択伐及び剪定を行って林床の光環境の改善を図り，レフュジア（待避地）として稀少な「和の花」を導入し経過を観察しているが，27 年度も新たな植物を導入した。

・宝が池周辺の森林

宝が池公園子どもの楽園周辺では，京都府立大学等と協力し，ナラ枯れ被害集中箇所の更新の推移や，シカ食害の影響等の観察を行った。

イ 文化財活用策の調査・検討

・平安神宮神苑

国の名勝平安神宮神苑の保存管理計画に基づく管理・活用計画の策定を委託され，調査・検討を行っている。

Ⅰ－２ 京都の庭園の保全管理，庭園文化・技術の継承及び発展に寄与する事業

決算額 22,767 千円 （予算額 23,800 千円）

京都の庭園の保全管理，庭園文化・技術の継承及び発展に寄与することを目的として，庭園の保全管理業務，その中での庭園講座等への活用，及び優れた庭園に関する情報発信等を行った。

ア 梅小路公園「朱雀の庭」の良好な維持管理と運営

京都が長年培ってきた造園技術を用い，伝統と創生が調和した梅小路公園「朱雀の庭」について，管理保全指針に基づく景観づくりに努めるとともに，新しい庭園の活用策としてイベント等を行った。

・紅葉まつり

例年好評の朱雀の庭ライトアップを 10 日間に延長し，照明を大幅増設するなどクオリティを高めた。これに伴い 27 年度より協会の自主事業として位置付け，入園料を 400 円とした。

期間 11 月 19 日～29 日（10 日間）（26 年 3 日間）

内容 ライトアップ，おしるこ振舞い，イベント室にレストランが出張開設

入園者数 3,395 人

イ 庭園情報の収集・発信　＜推進プラン事業番号 37-2＞

京都の優れた庭園の情報を収集し，ホームページ・広報誌「京のみどり」等において実際に訪れていただくための発信を行った。また，事業企画委員会において，海外向け発信方法の検討や，ホームページに掲載する写真の選考等を行った。

a 「京都発・日本庭園の文化と技術を世界へ発信」事業企画委員会

京都府造園協同組合及び（一社）京都造園建設業協会から派遣された造園家４名（永井正文，矢田久喜，小島裕史，山田豊久の各委員），吉田昌弘座長及び事務局で構成。

・開催実績（計８回）第 13 回～第 20 回
4 月 22 日，6 月 5 日，8 月 20 日，9 月 30 日，11 月 11 日，12 月 16 日，1 月 20 日，3 月 9 日

・検討事項　京都の庭園を英語でネット上に発信，旅行者にも造園家が案内できる体制づくり，案内人の養成　等

ウ　京都庭園文化講座等　　＜推進プラン事業番号 37-2＞

a　京都庭園文化講座

日本庭園に関連する「緑の文化」，伝統的技術について理解を深めていただくことを目的に，庭園デザインや関連分野の建築・茶道等の様々な視点から庭園文化を学ぶ講座を実施した。

・受講料 5,200 円　　・受講者　のべ 98 人

・各回の実施内容

回	開催日	内　容	講師（敬称略）
第１回	１月 27 日	日本庭園の歴史	吉田昌弘
第２回	２月３日	日本庭園のデザイン手法	武田純（造園家）
第３回	２月 10 日	京都の庭づくり	井上剛宏（造園家）
第４回	２月 17 日	庭園見学研修	吉田昌弘

（※26 年度は５回実施。）

b　ガイドボランティア講座及びガイド活動

庭園文化講座の受講者及び公園で活動するボランティア団体のうち希望者を対象に，朱雀の庭・いのちの森のガイドボランティアを養成する講座を実施した（27 年度受講者向け２回のべ参加人数 22 人）。また，修了者によるガイド活動を個人向け（月１回），団体向け（予約制）として実施した。

・講師　吉田昌弘，協会職員

・内容　朱雀の庭・いのちの森の設計，解説ポイント，話し方研修

・27 年度ガイド活動実績　計 13 回実施　のべ参加人数 130 人
（26 年度は６回）

エ　日本庭園の伝統的技術・技能研修　　＜推進プラン事業番号 36-1＞

若手造園技術者を対象に，京都府造園協同組合青年部との共催により，伝統的技術・技能の研修を行っている。27 年度は「露地庭」をテーマとした。（28 年４月に第３回実地講習を開催。）

・第１回　１月 29 日　座学　18 人　講師：小河正行（植熊）

・第２回　２月 7 日　個人邸露地庭の見学　27 人　講師：小河正行

Ⅱ　公園収益事業

決算額 92,965 千円　（予算額　92,332 千円）

梅小路公園，宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の中での収益事業，自動販売機飲料販売事業，国立京都迎賓館庭園の保全管理業務の受託等を行い，その収益を公益目的事業，及び法人業務の財源とした。

ア　自動販売機飲料販売事業

公園便益施設として，指定管理受託している２公園のほか市内 20 公園に自動販売機を設置し，その全収益を公益目的事業に活用した。

イ　梅小路公園収益事業（貸室，遊戯用電車等）

遊戯用電車（狭軌１型のチンチン電車）の運行（京都市受託事業），広軌１型車両を静態展示する市電展示室の管理を行った。

ウ　宝が池公園子どもの楽園駐車場運営事業

子ども・家族向けイベント等の事業の充実，繁忙期の天候が前年に比べ良かったことから，利用実績（台数）は 26 年度を大きく上回り，2,620 台増となった。

エ　国立京都迎賓館庭園維持管理事業

京都が長年培ってきた造園技術の集大成ともいえる京都迎賓館庭園について，内閣府からの受託事業として，管理保全指針に基づき，造園に携わった造園業者とともに，計画的な景観づくりに努めた。

・人材育成研修への活用　計 6 回のべ 133 人

造園技術者（京都府造園職業訓練校，京都府造園協同組合青年部）の刈込み・剪定研修，及び造園系大学学生の池清掃のボランティア作業（淡路景観園芸学校，岐阜県立国際園芸アカデミー，東京農業大学，大阪府立大学）

Ⅲ　法人業務

決算額 4,084 千円　（予算額　5,732 千円）

(1)　理事会・評議員会

理事会は，2 回開催した。

評議員会は，臨時を含む 2 回を開催した。臨時評議員会である第 6 回評議員会は，事務局が 2 人の監事のうちの 1 人の任期の起点を錯誤し，定時評議員会（27 年 6 月）までの任期が過ぎていたことが判明したため，速やかに是正を図るために開催した。

【理事会】

回	開催日	主要議決事項
第 9 回理事会	27 年 5 月 25 日	平成 26 年度事業報告及び収支決算の件 定時評議員会の招集の件
第 10 回理事会	28 年 3 月 16 日	平成 28 年度事業計画及び収支予算の件 資金運用規定の執行方針及び計画案の件

【評議員会】

回	開催日	主要議決事項
第 5 回評議員会	27 年 6 月 25 日	平成 26 年度収支決算の件 評議員選任の件
第 6 回評議員会 （臨時評議員会）	27 年 8 月 24 日	監事選任の件

(2) 京都市外郭団体中期経営計画を受けた自律化

京都市基本計画「はばたけ未来へ！京プラン」（平成 23～32 年度）に基づく「実施計画」（24～27 年度）を受け，当協会を含む京都市外郭団体の多くは，京都市外郭団体中期経営計画（計画期間・平成 27～29 年度）を 26 年度中に策定する中で，市の財政的関与及び人的関与を廃止する「自律化」の方向性を明確にするよう求められてきた。当協会は変化が著しい指定管理事業を担うなど，さまざまな社会的要請に対応する事業推進体制づくりを急ぐ必要があることから，27 年度より京都市補助金の受入れ，及び京都市からの常勤役職員の受入れを廃止した。

(3) 公益法人会計・税務対応

公益目的事業の収支相償の原則，公益目的事業比率の確保等を遵守し，税制優遇措置を活かしながら各事業を執行した。京都市補助金の減額及び廃止を想定し，市補助金に依存しない自立的な法人を目指して，公益認定法人としての会計・税務対応に努めた。

(4) 京都市会計検査への対応

・平成 27 年度会計検査（公金収納受託者）

2 月 19 日～3 月　遊戯用電車使用料の会計を対象に行われ，不適合はなかった。

(5) 計画的な教育及び研修の実施による職員の資質と能力の向上

各事業で効率的な運営，顧客満足度の向上を図ることができる職員を養成するため，各分野の外部研修を行った。また，マイナンバー制度が導入されたことから，全職員を対象に情報セキュリティーに関する内部研修も行った。

・派遣回数のべ 15 回　派遣人数のべ 18 人（京都市基本理念，遊具点検，労務・福利厚生，コンプライアンス推進，マイナンバー制度研修，公園管理実務者会議，全国及び関西地区花と緑の相談所連絡会議，生物多様性認証制度講習等）

（平成 26 年度は派遣回数のべ 15 回，派遣人数のべ 20 人）

事業報告の附属明細書について

平成 27 年度事業報告には，「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書の内容である「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので，作成しない。